

2013年度前期		知の市場(シラバス)						新規			
科目No.	共催講座 CT304	科目名	サイエンスコミュニケーション実践論2				副題	リスク・コミュニケーション入門 ー身の回りのリスクをめぐって			
連携機関名	日本サイエンスコミュニケーション協会 くらしとバイオプラザ21	水準	基礎	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	水曜日 18:30～20:30	拠点 (開講機関)	東京・お茶の水女子大学 (お茶大LWWC増田研)
科目概要(300字)	21 世紀の今日、「知識のための科学」や「産業のための技術」に加えて「社会における、社会のための科学・技術」の重要性が認められるようになった。社会の課題に主体的に関与するために科学技術の本質を理解して適切に判断できるように、市民にも高い「科学・技術リテラシー」が求められている。その中で「科学技術リテラシー」のひとつの形態として、多様な意見の存在を知り合意形成につなげる活動としてのリスク・コミュニケーションの重要性が高まっている。科学技術に対する理解・関心・意識を深めつつリスクコミュニケーションの事例を紹介し、その理論と実践的技術を解説する。										

科目構成	No.	講義名	講義概要(150字)	講義日	教室	講師名	所属	
リスクコミュニケーションとは	1	サイエンスコミュニケーションとリスクコミュニケーション	サイエンスコミュニケーションとリスクコミュニケーションの関係、リスク分析におけるリスクコミュニケーションの位置づけについて解説する。	4月17日	お茶の水女子大学 共通講義棟 1号館	高安礼士 (全国科学博物館振興財団)	サイエンスコミュニケーション協会理事/くらしとバイオプラザ21 常務理事	
	2	リスクコミュニケーションの手法	リスク情報を伝える手法のひとつであるカードゲームを行い、参加者の参加目的などを確認する。	4月24日			真山武志 佐々 義子	くらしとバイオプラザ21 専務理事・常務理事
事例研究	3	事例研究1 感染症	感染症をめぐるリスクコミュニケーションの現状と課題を解説する。	5月1日			岡部信彦	川崎市衛生研究所・元国立感染症研究所情報センター長
	4			5月8日				
	5	事例研究2 報道	ジャーナリストはどのようにリスクの情報を集めて、どのように伝えるのかを具体的に解説する。	5月15日			小出重幸	くらしとバイオプラザ21 理事・元読売新聞編集委員
	6	事例研究3 化学物質	身の回りの化学物質・化学製品に関する、リスク・コミュニケーション活動を行うための基礎知識を解説する。	5月22日			小野 菜穂子	環境カウンセラー
	7	事例研究4 食品	FDAはどのようにリスク分析という手法を採用したかについて紹介し、日本の食のリスクコミュニケーションの現状について考察する。	5月29日			ジェームズ・マリァ ンスキー 飯島みどり	元米国FDAバイオテック・コーディネーター アメリカ大使館農務部
	8	事例研究5 組換え作物	日本での遺伝子組換え作物(食品)のリスクコミュニケーションにおいて開発企業の立場で感じている問題や課題を説明する。	6月5日			佐々木幸枝	日本モンサント広報部長
	9	事例研究6 医薬品1	くすりの適正使用協議会が実施しているくすりのリスクとベネフィットを伝える「おくすりの教育」の現状を紹介する。	6月12日			松田偉太郎	くすりの適正使用協議会事務局長
	10	事例研究7 医薬品2	くすりの副作用情報の伝え方について解説し、新聞記事をもとに考察する。	6月19日			真山武志	くらしとバイオプラザ21 専務理事
	11	事例研究8 最新バイオ技術	遺伝子組換え技術に関する消費者向けの情報提供と対話の手法について考察する。	6月26日			田部井豊	農業生物資源研究所遺伝子組換え研究推進室長
	12	事例研究9 食品添加物	日本食品添加物協会におけるリスクコミュニケーション活動の現状と課題を解説する。	7月3日			金子 隆	日本食品添加物協会常務理事
リスク情報の伝え方	13	リスク情報の伝え方1(講義)	リスクコミュニケーションの計画法について説明する。受講者は計画案を作成する。	7月10日			佐々 義子	くらしとバイオプラザ21 常務理事・主席研究員
	14	リスク情報の伝え方2(演習)	受講者がリスクコミュニケーションを実施し、相互に評価する。	7月17日				
	15	まとめ	受講者によるリスクコミュニケーションの実施に対する評価を踏まえて、講座全体のまとめを行う。	7月24日				